



国際バルク戦略港湾の推進について（平成29年11月一般質問）

次に、国際バルク戦略港湾の推進について、お尋ねいたします。

本県の基幹産業である基礎素材型産業は、エネルギー資源である石炭を海外から大量に輸入し、自家発電による安価な電力を活用することで、多種多様な製品を生産するなど、**海外や国内への素材供給拠点**としての役割を果たしています。

しかし、新興国の急速な経済成長等に伴い、石炭などのエネルギー資源は、世界的な獲得競争が激しさを増しています。

このような状況下において、県内企業の国際競争力強化を図るためには、物流コスト削減に寄与する港湾整備を、今まで以上に推進していく必要があることから、県では「**瀬戸内産業の再生を目指す港湾の機能強化**」を「元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン」の重要施策として位置づけ、**国際バルク戦略港湾の推進**に鋭意取り組まれています。

現在、**徳山下松港や宇部港**では「**国際バルク戦略港湾育成プログラム**」に基づき、石炭の共同輸送や2港揚げなど、船舶の大型化に対応するため、航路・泊地の浚渫や岸壁の延伸などの**ハード整備**が行われています。

さらに、徳山下松港では、6月に「**徳山下松港国際物流ターミナル整備事業**」の着工式が盛大に開催され、現在、全国有数の水深を誇る栈橋の整備などが進められています。

こうしたハード面の整備効果をより一層高め、石炭の輸送コスト削減を確実なものとするためには、共同輸送に向けた企業間連携の促進や、特定貨物輸入拠点港湾の指定など、**ソフト面の取り組みが極めて重要**です。

このうち、企業間連携については、本年1月に引き続き、来年1月にもパナマックス級船舶による石炭の共同輸送が見込まれるなど、取り組みが着実に進められています。

また、特定貨物輸入拠点港湾の指定については、指定を受けることで、石炭の国内輸入拠点としての位置づけが明確になるとともに、税の優遇措置など関係企業への支援にも繋がるため、早期の指定が求められます。

指定への要件である埠頭群を一体的に運営する港湾運営会社の設立については、2月以降、関係企業等で構成する設立準備会などにおいて、会社の業務内容や運営形態に関して、意見の集

約や合意形成等が行われ、バルクに関しては全国初となる「やまぐち港湾運営株式会社」が9月末に設立されました。

私は、これまでの県の取り組みを高く評価しておりますが、国際バルク戦略港湾については、ハード・ソフトの両面から着実に進めていく必要があるため、県には今後とも主導的な取り組みを期待するものです。

そこで、お尋ねいたします。

港湾運営会社の設立など、国際バルク戦略港湾の推進に向けた動きが大きく前進する中で、県は今後どのように取り組まれるのか、御所見をお伺いします。

<答弁>

国際バルク戦略港湾の推進についてのお尋ねにお答えします。

県内企業の国際競争力の強化を図るためには、物流コストの削減に寄与する産業基盤の整備を進めていくことが極めて重要であることから、県では、現在、一括大量輸送による安価かつ安定的な石炭の供給を目的とした、国際バルク戦略港湾施策を重点的に推進しているところです。

こうした中、昨年度には、新南陽地区において航路が概成し、初めてパナマックス級船舶が入港するとともに、お示しのとおり、今年6月には、下松地区において、大水深栈橋の整備に着手し、9月には、「やまぐち港湾運営株式会社」を官民協働で設立するなど、着実に成果が得られているところです。

一方、国際バルク戦略港湾施策の最終目標である、ケープサイズ級船舶による共同輸送を実現するためには、今後も引き続き、ハード・ソフトの両面から、当該施策を積極的に進めて行く必要があります。

まず、ハード整備については、2港揚げのファーストポートとなる下松地区において、国や民間企業との連携の下、栈橋や荷役機械等の整備を進めるとともに、徳山地区、新南陽地区及び宇部港についても、航路・泊地の浚渫や岸壁の延伸等を進めるなど、実施計画である育成プログラムに沿って、計画的・効率的に必要な施設整備を進めることとしています。

次に、ソフト対策については、港湾運営会社を核として、企業間連携をより強固なものとするため、関係企業間において、石炭の需要見込みや輸送船の配船計画に係る情報の共有を促進するとともに、新規石炭需要者を開拓するため、官民一体でポートセールスを実施するなど、施設整備の効果を高めるための取組を積極的に進めてまいります。

また、税制優遇措置の対象となる特定貨物輸入拠点港湾の国の指定につきましては、現在、必要な手続きを進めており、年度内を見込んでいるところです。

県としては、こうした取組を通じて、本県の強みを最大限に活かし、活力の源となる産業力を伸ばすため、今後とも、ハード・ソフトの両面から、国際バルク戦略港湾施策の具現化に取り組んでまいります。